

話題提供:本郷 浩二
(世界人権問題研究センター)

「融和運動史から考える
部落問題」

無料

6月15日(水)
午後1:30~3:00
人権問題研究センター
共同研究室

お問い合わせはセンターまで
06-6605-2035
info@rchr.osaka-cu.ac.jp

戦前の部落解放運動の一形態である融和運動は、被差別部落に対して同情や恩恵をもって接し、国家主義などとも結びつく反動的な運動といったイメージで捉えられることが多い。そのため、戦後の部落解放運動や同和教育の場面では、長く「融和主義」や「融和的」という言葉が部落問題に臨む際の保守的・体制的な態度に対するレッテルとして批判的・否定的に用いられてきた。だが、融和運動はそうした否定的評価には還元しきれない、多様な部落問題論が展開される場でもあったことはあまり知られていないのではないだろうか。融和運動における豊饒な部落問題論を紹介しつつ、そこに内包された現代的な課題について考えてみたい。

Osaka City University

130th

都市で学び 夢をつかむ